

あじさい 147号

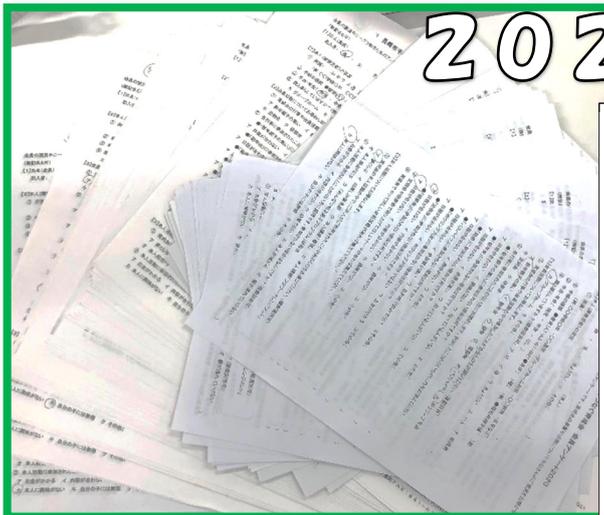
吉田淳一郎さんの絵がサポート協会主催

アールブリュット展で入選！！



吉田淳一郎さん（ワークあじさい・ライフ西北）が一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会主催の2020年度アールブリュット展で見事入選を果たされました。最近のお気に入りというポスター用のマジックで描かれた“みんなが楽しくおもしろくみえるように”というタイトルの作品は吉田さんの遊び心の詰まった絵で、空想と現実が交じり合う楽しい作品となっています。
(詳しくは7ページをご覧ください。)

2020会員アンケート実施

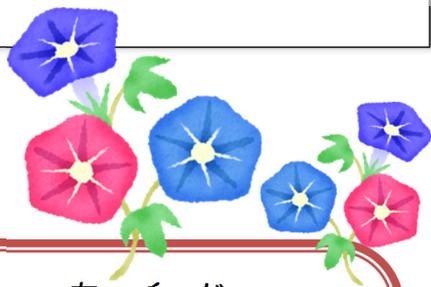


育成会では、会員のみなさんの現況とニーズを知るために定期的に会員アンケートを実施しています。前回の2016年に続き今年度実施し、半数の方にご回答をいただきました。例年アンケートの結果は総会で報告させていただいていましたが、今年は総会も中止となってしまいましたので、広報の紙面でご報告させていただきます。なお、アンケートの結果はホームページでもご紹介しております。皆様から寄せられた様々な意見も併せて載せておりますので、ぜひご覧ください。

育成会パンフレットが完成！



長崎市手をつなぐ育成会のパンフレットができました。今回広報紙と併せてみなさまのお手元に届けておりますので、ぜひお知り合いの方にご紹介ください。正会員、賛助会員ともに募集中です。



もくじ

- 会員アンケート報告
- きらり
吉田さん！
おめでとう！！
- お知らせ



育成会 会員アンケート 報告

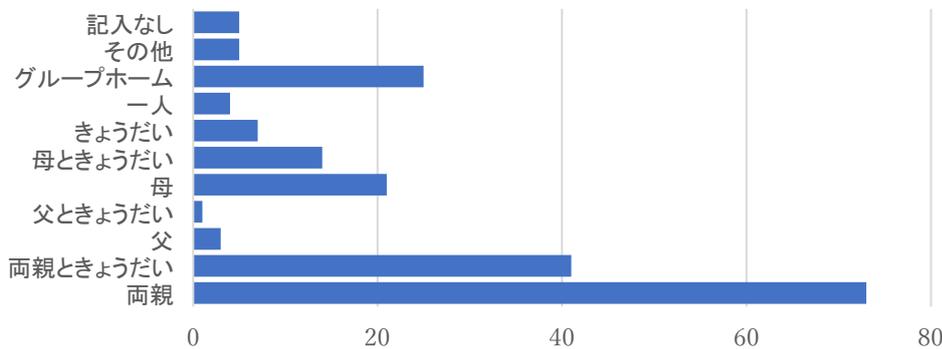
長崎市育成会では会員のみなさんの現況やニーズを知るために定期的にアンケートを行っております。前回は2016年に実施し、その年の定期総会で集計結果を報告させていただきました。そして今年度、広報紙や事業所を通じて配布し、アンケートのご協力をお願いしましたが、ご存知のようにコロナ感染防止のため定期総会は中止となりましたので、アンケートの結果や皆様から寄せられたご意見などを広報紙で報告させていただきます。

賛助を除く会員さん411名に送付し228枚を回収しましたが、お返しいただいたのが約半数で、これからご報告するデータが、必ずしも育成会会員全体の状況を正確に表していると言えないものもありますので予めご了承ください。

【記入者・本人の状況（所属・手帳・手当、年金）】

記入者の7割は母親できょうだい1割程度、その後父親、本人と続きます。回答いただいた方の9割近くが障害福祉サービスの事業所を利用されており、就労されている方、在宅、学生の方はわずかででした。育成会は知的障害のある子を持つ親の会ですので、手帳は療育手帳をみなさんお持ちですがその中でもAをお持ちの方が6割以上、Bをお持ちの方は3割弱で、療育手帳と身体障害者手帳両方をお持ちの方は2割弱いらっしゃいました。8割以上の方が年金をもらわれており、何ももらっていない方も6名いらっしゃいました。

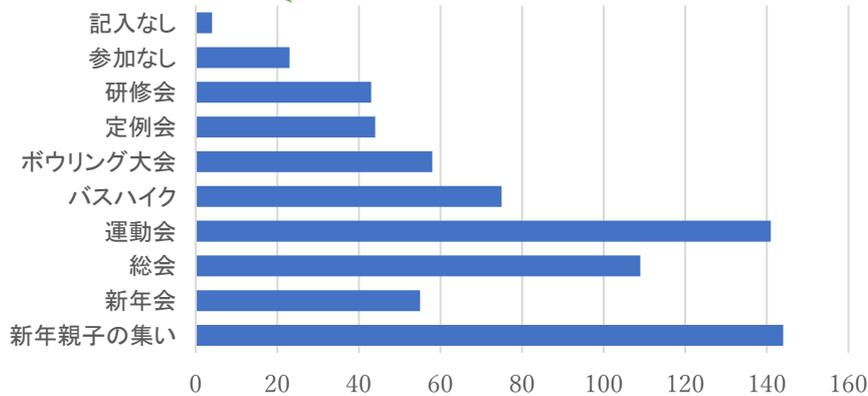
誰と暮らしてる？



6割弱の方はご両親といっしょに生活されており、父親または母親と暮らしている方、グループホーム入居の方はそれぞれ2割弱、ごきょうだいと住んでいる方が10名、それ以外に配偶者、姪、兄嫁、おばという方も1名ずついらっしゃいました。

（この文章は上記のグラフの右側に配置されています）

会員活動について



参加したことがある会員活動は、新年親子の集い、運動会には7割近くの方が参加したことがあると答えられました。一方で1割の方は何にも参加したことがないと答えられています。参加しない理由として最も多かったのはどの行事でも「日程が合わない」というものでした。その他の理由は行事によって様々ですが、新年会やバスハイクなど参加費が必要なものは金銭

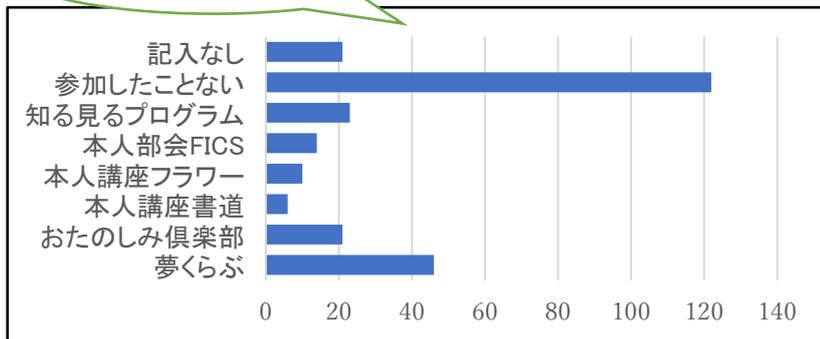
（この文章は上記のグラフの右側に配置されています）

的な理由やそれぞれの行事に興味がないという理由もありました。また体調を理由としてあげる方

も多く、今後ますます会員の高齢化により行事の親子での参加が減ることが予想されます。

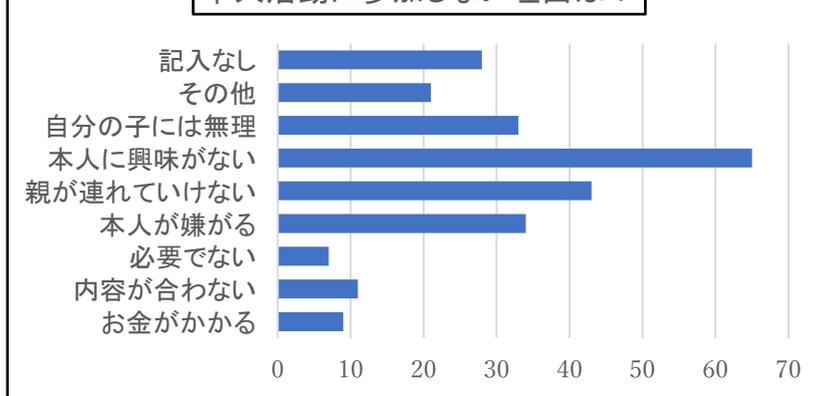
本人活動について

育成会の本人活動に参加したことがない人は回答いただいた方の半数



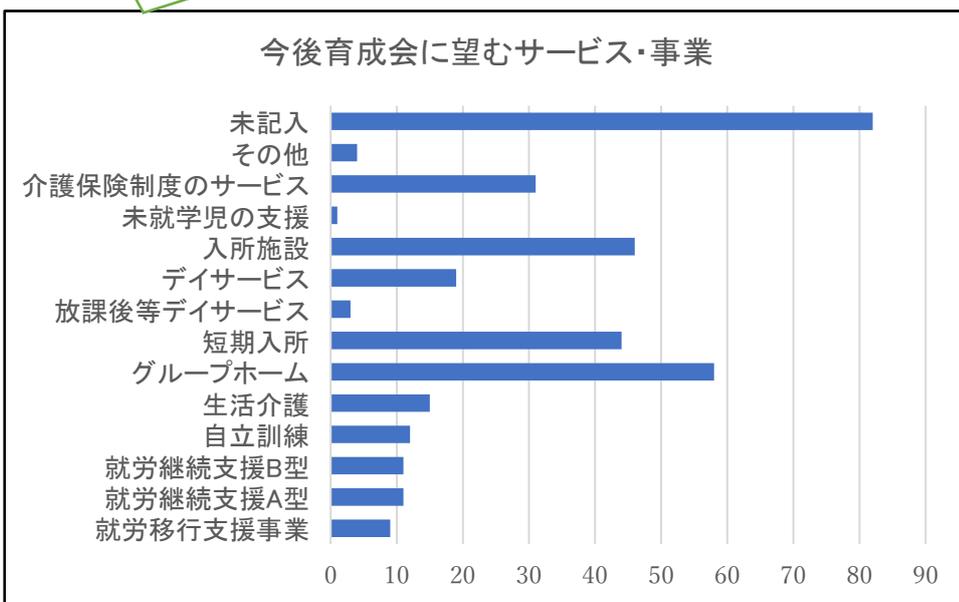
以上に上り、育成会の本人活動が多くの人に定着していないことがうかがえます。参加しない理由としては「本人に興味がない」という理由が最も多く、また「本人が嫌がる」など、本人側に参加しない理由がある場合と、親が「自分の子には無理」と感じていたり、「自分が連れていけない」などの親の側に理由がある場合に分されました。本人活動への要望としては「重度な本人がもっと参加できる内容のものが欲しい」という意見があり、現在ヘルパー同伴で参加される重度の方はいらっしゃるものの、活動内容を見直し、もっと多くの人に参加しやすくなるように変えていかなければなりません。

本人活動に参加しない理由は？



利用したことがある育成会の事業・今後育成会に望むサービス・事業

育成会の事業所で最も多くの方が利用しているのは相談支援事業いんくるでした。育成会会員や育成会事業



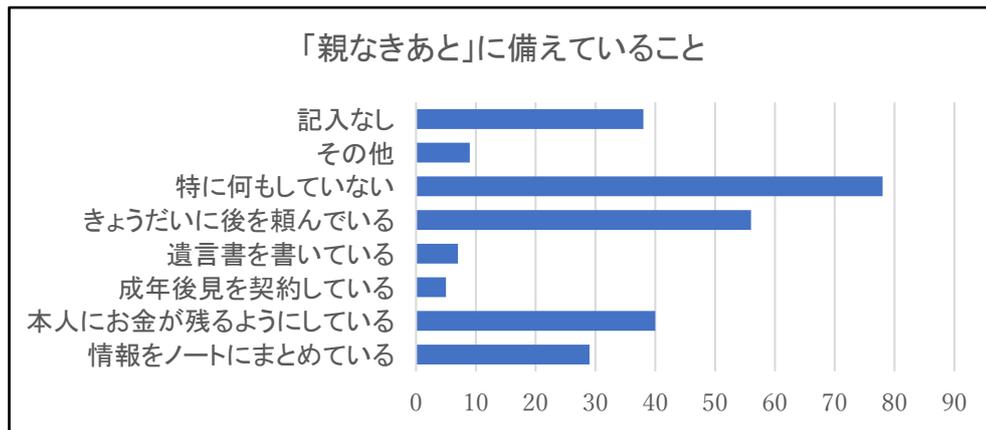
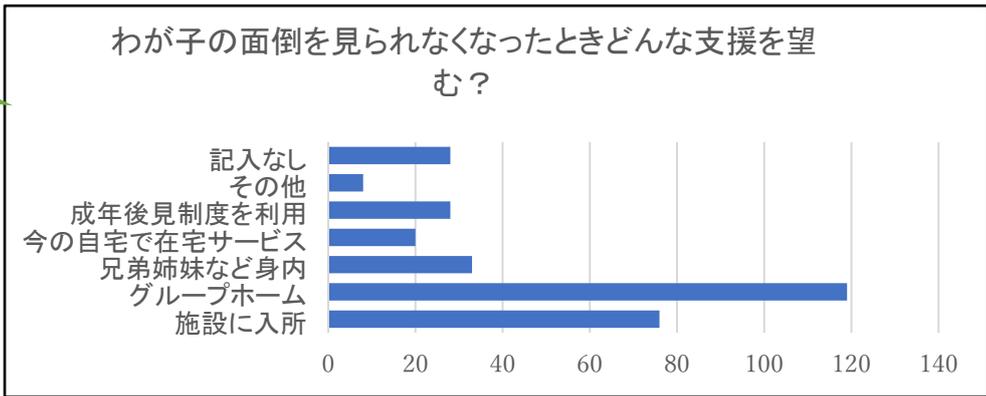
所の利用者が多いことを考えれば当然と言えます。次に多かったのが短期入所でした。ケアホーム陽香里の開所で今後さらに短期入所の利用が増えると考えられます。

今後育成会に望むサービスとしてはグループホーム、入所施設という声が多く、会員の多くが親なき後の不安を抱

えていることが推察されます。また介護保険のサービスを希望する声やその他として老人の入所施設もあり、65歳問題も大きな心配のタネとなっているようです。

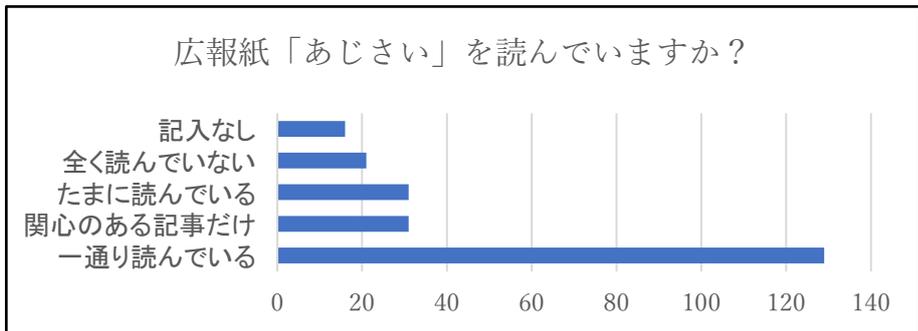
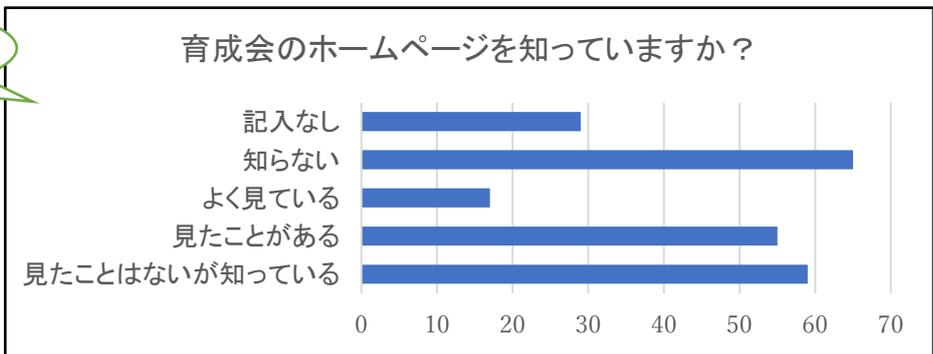
親の老後と親なきあと

『親なきあと（親がわが子の面倒をみられなくなったとき）』は障害のある子を持つ親にとって永遠のテーマです。半分以上の人はグループホームへの入所を望んでおり、次いで入所施設を望む声も依然として根強くあります。また、「親なきあと」に備えていることとしては「何もしていない」という声が一番多かったものの、「きょうだいに後を頼んでいる」「本人にお金が残るようにしている」「本人の情報をまとめている」など少しずつ準備をされている方もいらっしゃいました。



育成会の広報活動

育成会では多くの方に育成会の活動を知っていただくため、ホームページや広報紙を作成しています。ホームページについては3割近くの方が「知らない」と答えており、認知度はまだまだのようです。加えてパソコンやスマホなど見る手段がないことを理由に上がられた方も多くいらっしゃいました。広報については6割弱の方は読んでくださっているようですが、全く読まない方も1割近くいらっしゃいました。あじさいがもっと多くの方に読んでいただけるように、会員のみさんのニーズを知り、求められる情報を提供できるよう頑張ります。



以上、簡単ですがアンケートの集計結果をご報告させていただきました。（詳しい結果はホームページで見ることができます）そしてアンケートには様々なご意見がありました。育成会に対する感謝の言葉もたくさんありましたが、要望やご意見もありました。いくつかご紹介しながら、育成会がそのご意見について育成会としてどのように対応していくのか、理事長にお聞きしました。

重度な人向けの本人活動を

- ・意思表示ができる人を中心に活動が展開されるため（重度な）当事者は動くことができていない。
- ・参加させたい気持ちはあすが自分で行けないので送迎が大変。
- ・重度のわが子は何も参加できないように思う。何か利用できる方法はないのか？

長崎市育成会の本人活動については、FICS や知る見るプログラムなどの話し合いの場と、本人生活講座（フラワーアレンジメント教室、書道教室）やお楽しみ倶楽部などの余暇活動の内容があります。どの活動もどなたも大歓迎です。知る見るプログラムなどでは、これまで支援者付きで参加をされ、仲間の中で楽しそうにしておられる様子をたくさんみてきました。また、余暇活動についてもヘルパーさんと一緒に参加されるケースも多くあります。ご本人が知らない人の中は嫌と感じられる方には無理強いにはできませんが、参加してみたら顔見知りも増え、新しいお友達の輪も広がります。どなたでも参加しやすい内容の検討も進めようとしておりますので、皆様からのご協力よろしくお願ひします。また、支援者については、最近、法人内の職員でヘルパーとして登録してくれる人もあり、皆さんからのご要望にお応えできることも増えているようです。何かありましたらヘルパーステーションへお尋ねください。（育成会ヘルパーステーション）：電話 095-841-9777

人材の育成は

- ・適切な対応が取れるよう、また意見された時にそれを受け止める姿勢を持てるよう、職員の育成に力を入れてほしい。
- ・職員の離職が多いように思う。風通しの良い職場造りを。
- ・職員の個性はあって当然だが、育成会職員としての最低限の振る舞いや言葉遣い、マナーなど教えてほしい。

現在職員数 246 名となりました。職員育成については法人としても大切に考えてきました。職員行動規範の徹底や職員全体研修会の継続、虐待防止研修、リスクマネジメント研修など多くの研修も積極的に取り入れています。ただ、職員育成については時間のかかることで、スキルの取得もですが、人間性、人間力を大切にしていきたいと考えております。

しかし、多くの職員は一生懸命現場で頑張っており、他の専門職の方から当法人の職員を褒めていただくことも多々あります。今後、保護者の皆さまのお力も借り、職員育成に努めてまいりますので、どうぞご理解の上忌憚のないご意見をお寄せください。

また、離職者が多いというご指摘については、250 名ほどの職員ですから色々な出入りはありますし個人的な都合で退職する人もおります。法人としては、職員たちがより働きやすい職場となることを大切に、これからも変わらず努力してまいります。

危機管理について

- ・事業所が休みになることがないようにコロナ対策を十分にやってほしい。
- ・危機管理の甘さが時折みられるので、しっかりと見直しをお願いしたい。

法人内では「危機管理・権利擁護委員会」を立ち上げ、コロナ禍の現状の中、適切な対応や対策を慎重に協議し実践しております。命を守ることを第一とし、その上で障害特性をふまえた安定的な支援の提供ができるよう努力してまいります。また、権利擁護の立場からも、日々人権に配慮した支援が

できるよう委員会でも課題化していきます。

今はとにかくコロナ感染が広がらないことを第一に、ご家庭の協力を得ながら、感染防止に努めてまいります。

65歳問題について

- ・65歳問題が近づいているので心配。
- ・親子ともに高齢化している現在、65歳問題が目前に迫っている。今の施設で生き生きと暮らしている今、ゼロから老人仲間に入れなければならないのは心配でたまらない。
- ・本人が高齢となりグループホームでの生活が無理になった場合、どのような進路があるのか？

長崎市では、障害福祉サービスを利用している障害者の方全員が65歳を迎えるところに、介護認定を受けることとなります。65歳になると、これまで利用していたサービスを利用できなくなることもあります。この65歳問題については地域によって温度差があるようですが、年齢を基準に仕分けられてしまう現状の中で、育成会としては、その方の意思を尊重し本人が選んだ進路の選択を確保できるようにしていきます。実際、本人に合ったサービスを考えてみると、年齢的にも介護事業所が良いという本人もおられ、一概に決めつけることではないようです。ただ、グループホームについては、ご本人の体調などでどうしても介護事業所が良いと判断される以外は、そのまま、グループホームに住み続けて変わらぬ日常を確保している方もおられます。障害のある方の意思と諸条件とをしっかりと見極め、その方が一番暮らしやすい日常を提供できるようこれからも育成会は努めてまいります

親なきあと

- ・私は72歳。いつまで健康でいられるか不安。入所施設を勧められたら入所させようと思う。
- ・何かあったときサポートや助言、情報がもらえる。親なきあとの相談窓口などがほしい。
- ・親なきあとを支えることになるので障害のあるきょうだいを持つ者どうして話がしてみたい。
- ・きょうだいを支えてくれる世の中になってほしい。

親なきあとについて、将来の不安を漠然と考えていても解決はしません。お金のこと、住まいのこと、日常の支援のこと等々、我が子の将来の生活の不安を一つひとつ明確にしておくことは大切なことだと考えます。広報でも度々お知らせしていましたが、会員定例会では1年間にわたり、我が子のことについて書き留める「親心の記録」の作成に取り組みました。そのことは「備え」としても重要で、もしもの時に親以外の家族や支援者にとっても大切な情報となります。課題も明確になり、その上で何をやらねばならないかがはっきり見えてくるかもしれません。「親心の記録」の書入力で、ご本人のことを整理してみると、ごきょうだいの方たちと話す内容も具体的に広がるのではないのでしょうか。

世の中の様々な制度を十分に活用し、人も含めた社会資源とつながり、安心を手に入れましょう。また、成年後見制度等についての法律的なご相談は、当会の顧問弁護士のご紹介もできます。整備されてきた制度を有効に活用するためにも、周り「手をつなぐ」ことを積極的に取り入れてみてください。育成会生活支援センター内の啓発事業部に知的障害者相談員（会員）もおりますので、何かありましたらお気軽にご相談ください。

（啓発事業部 電話 095-845-5677）

また、この機に「親心の記録」を書いてみようとおもわれる方、ご希望があれば用意がありますのでお知らせください。また書き入れについては、啓発事業部でお手伝いもできます。



入選 おめでとう！！

一般社団法人全国知的障害児者生活サポート協会主催の2020年度アールブリュット展で全国より寄せられた70作品の中から3作品が選出され、みごと当会会員吉田淳一郎さん（ワークあじさい・ライフ西北）の作品が3作品の中のひとつに選ばれました。受賞の感想をお聞きすると「事業所の



職員から勧められ応募したけど、まさか受賞するとは思っていませんでした。どの作品を出したのかも忘れていたくらいです。びっくりもしたけど嬉しかったです。」と笑顔で話されていました。

現在怪我のせいで農園芸の作業には行けず、その分制作に使える時間は増えたそうです。ただ思うように腕が上がらず、絵を描くには不自由な様子でした。以前は主に水彩画を描かれていたそうですが、最近は修正がしやすいことや片づけが簡単という理由からポスター用のマジックで描くことが多いそうです。

“みんなが楽しくおもしろくみえるように”というタイトルがつけられたこの作品は花の中に空想のおばけやロボットが見え隠れするとても楽しい作品です。「これは鳥？」と中央の辺りを指さすと「それは蘭をモチーフに描いた花です」と言われ、「見る人によっていろいろなものに見てもらえるので“みんなが楽しくおもしろくみえるように”というタイトルにしました。」と教えてくださいました。

小さい頃人見知りであり人としゃべらなかつたという吉田さんは、広告紙の裏に絵を描いて遊んでいました。そこからずっと自己流で絵を描き続け3年間ほど絵画サークルで指導を受けましたが、お母さんの入院をきっかけに辞めてしまったそうです。今回の受賞はお母さんもとても喜んでくれたと嬉しそうに話してくださいました。



好きな画家は山下清です。自分の書きたいものを自由に描いているところが好きです。ゴッホやモネも好きです。描きたいときに描けるよう、実際の風景や夢で見たものをスケッチブックに描き溜めています。いくつかを組み合わせると1枚にすることもあります。絵を描いていなかったらイライラしたり、誰かにあたることも多かったかもしれません。これからも絵は描き続けたいです。

現在制作中の絵はプランターを軍艦島に見立て、島には建物に見立てたバケツや発泡スチロールが描かれています。花の絵が多いのは吉田さんが園芸班で花を育てていることも影響しているそうです。

おしらせ

書道

日時: 第4土曜日 時間: 午後1時~
場所: ハートセンター社会適応訓練室
会費: 1回 500円

社会福祉法人
長崎市手をつなぐ育成会 広報部
長崎市大橋町 19-19
文教カテリーナ1F
Tel: 095-845-5677
E-mail: tewotunagu@hi.enjoy.ne.jp

フラワーアレンジメント

日時: 第2・第4土曜日 午前10:30~
場所: ハートセンター5F 社会適応訓練室
会費: 1回1300円



おたのしみ倶楽部

日時: 8月30日(日) 13時~15時 日時: 9月13日(日) 13時~15時
内容: フルーツポンチ作り 内容: 風船バレー

- * 8月は参加費300円に加えて材料代300円も請求させていただきます。
- * 人数把握のために必ずお申し込みをお願いします。お申し込み・お問い合わせはハートセンター事務局まで。 ☎: 847-1290
- * 計画は変更されることがありますので確認をしてから参加してください。

定例会

日時: 8月20日(木) 10時~12時 育成会生活支援センター会議室(大橋町)
「親の終活と子どもの将来についてのドキュメンタリーを観て話し合います」
日時: 9月18日(金) 10時~12時 内容未定
* お問い合わせはタイムケア事務局までTEL 845-5677

運動会中止のお知らせ

前回のあじさい146号で、10月10日(土)開催予定の育成会運動会について検討中としましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、中止にすることに決定しました。楽しみにしていた方々もたくさんおられることと思いますが、このような状況が早く収束することを願いつつ、また、これからの行事開催の新しい形を検討していかなければならないと考えています。